

## 第3ブロック研究部

令和7年度 研究主題  
遊びの育ちと小学校教育とのつながりを考える  
～幼児が夢中になって遊ぶ姿から～

**17園で共同研究をしています！**

愛珠 銅座 玉造 中大江 桃園 南 九条 鞆 日吉 三軒家西  
日東 立葉 粉浜 住吉 墨江 玉出 天下茶屋

### 3月研究部会 令和8年3月4日(水) 立葉幼稚園

第5回研究部会では、視察出張報告とグループ討議会を行いました。「1年間の研究を通して学んだこと」「研究の成果を踏まえ、園として今後取り組みたいこと」について、各園で話し合ったことを基に討議し、学びを深めました。

#### 《グループ討議のまとめ》

##### 【1年間の研究を通して学んだこと】

- ・今回の研究で、3歳4歳5歳と育ちが連続していることがよく分かり、3歳から土台をつくっていくことの大切さを感じた。そのために、教師が子どもの興味や関心、心の動きを細やかに捉え、見通しをもって保育をしていかなければならないという責任を感じた。
- ・園内研究保育や実践記録の検討会では、活発な意見交流を行うことができた。他の先生と幼児の育ちの姿を読みとり、討議することで、幼児を多面的に捉えることができた。また、実践記録の形式が自由であることで、より伝えやすい記録形式を工夫するなどの学びがあった。
- ・小学校教育について考えるきっかけとなった。小学校を訪問したり、小学校の教育課程を見たりして、小学校教育への学びを深めた。幼稚園での学びが小学校教育の基盤になっていることを実感した。

##### 【研究の成果を踏まえ、園で今後取り組みたいこと】

- ・遊びの中で何を育んでいるのかを意識し、見通しをもった保育を心がけていきたい。
- ・小学校教育について、もっと学びたい。幼児期の育ちが、どのように小学校へつながっていくのかをもっと探してみたい。
- ・幼小連携を深めていきたい。幼稚園と小学校の子どもの姿を共有して、つながっていきたい。

#### 【視察出張報告】

○1日目 公開保育 大津市立坂本幼稚園 全体会 びわ湖ホール

- ・園内外の豊かな自然や地域資材を生かした保育に取り組んでいる。公開保育では、幼児と教師が試行錯誤してつくったびわトープ(ビオトープ)で泳ぐアメンボの姿を夢中になって観察したり、つくった船を浮かべたりしながら、幼児が生き生きと遊んでいた。
- ・全体会では、

○2日目 第2分科会「学びをつなぐ幼保小の連携」

- ・幼保小接続での幼保小の教員が共に学ぶ機会づくりが大切である。
- ・今後も、子どもが夢中になって試行錯誤しながら遊ぶことのできる環境や教師の働きかけ、その中で育まれた学びの芽が、小学校教育にどのようにつながっていくかを、幼児の姿から見取っていくという力を学び続けていきたい。

## 【講話】

大阪市教育委員会事務局 指導部 初等・中学校教育担当 総括指導主事

### ○1年間の研究を振り返って

- ・第1回の部会で、遊びの育ちの捉え方として、教師は幼児と生活を共にしながらその幼児が何に興味をもっているのか、何を実現しようとしているのか、何を感じているのかなどを捉え続け、幼児理解を深めることで幼児の育ちを見とることができるのではないかと話をした。
- ・実践記録では、幼児が夢中になった姿からどのようなことが育まれているかを、様々な角度から読みとったことが幼児理解の深まりにつながった。それぞれの実践記録の考察や年齢別で分析をする場合にも、幼稚園教育において育みたい3つの資質能力の観点から子どもの育ちを捉えてみることで、遊びを通した総合的な指導の中で育ちが一体的に育まれ、相互に関わり合っていることが明確になるのではないかと話をした。
- ・研究保育を2園で実施。部員が保育を参観し、膝を突き合わせて討議できることのよさがあった。研究保育を実施した園は、子どもが本当にやりたいと思い、できる活動を見つけていけるように、また興味や関心のある活動を選べるように子どもたちの実態を見ながら環境を構成し、その場やその子に応じた関わりを工夫していた。育てて欲しい子どもの姿を、各園で具体的に想像していくことが子どもの無限の可能性を引き出し、夢中になって遊ぶ姿になっていくと考える。討議では、園としての実態や特色、教師個人としての経験や立場、子どもの見方の違いがある中で、ひとつの場面や遊びについて、積極的に話し合い、共感したり、新たな考えを知ったりすることで大きな学びがあった。動画を活用した討議を取り入れたことも画期的で、子どものつぶやきや会話、細かい表情や動きなどを含めた新たな気づきを得ることができたのではないかと話をした。
- ・元小学校校長から、遊びがつなぐ幼児教育と小学校教育の演題で話をいただいた。小学校の教育を知ることが、幼児教育の振り返りにもつながる。幼児教育と小学校教育の学びやその育ちのつながりを考える上で、貴重な講演となった。
- ・幼児期の教育と小学校教育がつながる、つなげるための取り組みについて、大阪市保育・幼児教育センターでは平成30年度から保幼小連携接続事業として小学校を核とした連携接続の進め方やあり方の研究に取り組んでいる。今年度、第1期から第4期の研究ブロックの成果を盛り込んだ架け橋期のカリキュラム実践ハンドブック〈なだらかにつながる連携接続〉を作成した。文部科学省が示している公立幼稚園の役割のひとつである、小学校（縦）と就学前施設（横）同士をつなぐ結節点になっていただけたらと思う。この研究がこれからも先生方の充実した保育や小学校への円滑な連携接続につながっていくことを期待している。

## 学んだこと

- ・1年間の研究を通して学んだことについてグループで討議し、様々な意見を聞くことで、幼児の育ちについて深く考えることができた。
- ・幼児期の育ちから小学校教育へつなげていくことの大切さを学んだ。
- ・小学校との接続を考えたり、交流したり、また講演会で元校長先生の話を知ったりしたことで、小学校教育について深く学ぶ機会となった。